

県産イチゴに対する地元消費者のニーズは高い

福島県農業総合センター企画経営部
平成18年度農業総合センター試験成績概要

1 部門名

農業経済 - 農業経済 - 市場対応、市場流通
分類コード 14-01-56720000

2 担当者

半杭真一

3 要旨

福島県郡山市でイチゴの消費者ニーズを調査した結果、イチゴの購入時に「産地」「品種」を重視することが示唆され、地産地消による販売戦略の可能性が示された。

- (1) グループインタビューの結果、イチゴの購買行動は子供の存在と強く結びついている。食味に関しては、望まれる特性が多様である。産地については、表示がされていることを認識しており、地元産を選択する傾向もある。品種についての知識は多くないが、表示がされていないという認識があり、品種によって選びたいという意向がある。
- (2) 地元産という概念を福島県としている回答者は購入している産地をどこでもよいと回答する傾向があり、郡山市内としている回答者は県内産を購入している。従って、地元産をより狭い範囲で捉えている回答者は、より地元に近い産地のものを購入する。
- (3) 「健康志向」と「価格重視」の食生活スタイルを比較すると、「健康志向」の食生活スタイルにおいてイチゴの購入時に「価格」「大きさ」よりも「産地」「品種」に深い因果関係がある。
- (4) 子供のいない世帯では「いそがし」型の食生活スタイルは、「健康志向」よりも「価格重視」への深い因果関係を示すが、子供がいる世帯においては、「いそがし」型であっても「健康志向」をより大きく示し、結果的にイチゴ購入時に「産地」「品種」を重視する。
- (5) 産地が地元により近い、あるいは品種の情報が示されているイチゴは消費者に高い効用を有する。

4 その他の資料等

なし